

2050年の目指すべき将来像について

1. 将来像

世界中の人々が知恵を出し合い、これからの世界を共創していく場となる **2025** 年大阪・関西万博を経て、**2030** 年に達成される **SDGs** の価値観が大阪から世界に広がり、ひとを救い、地球を守る取組が社会全体に浸透している。

資源循環分野においては、環境、社会、企業統治の観点から企業投資を行う「**ESG** 投資」が進み、できるだけ少ない資源で最低限必要な物が生産されるとともに、シェアリングビジネスが浸透し、持続可能なライフスタイルが全ての府民に定着することで、資源の循環的な利用が自律的に進む社会が形成され、廃棄物の排出量が最小限に抑えられている。

また、生じた廃棄物は、ほぼ全量が再生資源やエネルギーとして使用され、製品として購入されることによって循環し、最終処分量も必要最小限となっている。

さらに、プラスチックごみはリユース又はリサイクル、それが技術的経済的な観点等から難しい場合には熱回収も含め **100%**有効利用し、海に流出しないよう適切に管理され、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が達成されている。

2. 社会イメージ

(1) ライフスタイル（府民）

視 点	現行計画	新たな記載（例）
物の購入	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみになりにくく、使用後のリサイクルが容易で長期間使用できる再生資源を用いたリサイクル製品を優先購入 ○レンタル等の利用により、物を所有することから機能のみ所有する考えが広がる 	<ul style="list-style-type: none"> ○使い捨てプラスチックの使用が必要最小限（マイバッグ、マイボトル、マイ容器の普及等） ○再生可能資源（バイオマス素材等）を使用した製品の普及 ○ICTやビッグデータを活用したシェアリングが広く普及
物の使用	<ul style="list-style-type: none"> ○修理（リペア）や機能追加（グレードアップ）による長期間使用や、交換会を活用したリユースが広く普及 	
物の廃棄	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭ごみの減量化や資源物の適切な分別リサイクルに積極的に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ○「すべてが有用な資源」という考え方が浸透 ○ポイ捨てを許さない社会気運が醸成され、不用意に捨てられるごみがなくなる。

(2) ビジネススタイル (事業者)

視 点	現行計画	新たな記載
製品の設計・生産	<ul style="list-style-type: none"> ○原材料には、再生資源や再生可能な資源を選択 ○ごみになりにくく、使用後のリサイクルが容易な設計、長寿命化への配慮が徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○製品のライフサイクル全体で環境負荷の最小化を考慮 (モジュラーデザインによる製品組立等) ○IoT や AI、ビッグデータを活用し、生産・流通・使用の情報をリアルタイムで把握でき、生産工程や生産量、生産時期が最適化 ○耐久性の高い商品の普及 (住宅等)
長期間使用	<ul style="list-style-type: none"> ○販売製品の長期間使用のサポート体制が整備 (リペア、グレードアップ、改修等) 	
使用済み製品のリサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○リース、レンタルが広く普及 ○拡大生産者責任に基づく製造事業者による使用済み製品の回収・再利用が広く普及 ○循環資源に関する情報の開示、データベース化により、業種を越えた効率的なリサイクルシステムが整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○シェアリング、サブスクリプション、個人間取引等のビジネスが広く普及 ○質の高い分別・再生利用により繰り返し利用 (プラスチックのケミカルリサイクル、センサーを活用した効率的な回収・分別・リサイクル等)
その他		<ul style="list-style-type: none"> ○サーキュラー・エコノミー型ビジネスが定着

(3) 適正処理 (行政、事業者、府民)

視 点	現行計画	新たな記載
廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> ○社会全体に不適正処理を許さない機運が熟成され、不法投棄や不適正保管が未然防止 ・排出者による適正処理の徹底 ・関係機関による監視網整備 ・土地所有者の自主管理の徹底 ・廃棄物処理業者の優良化 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ IoT や AI 等による廃棄物の収集運搬・処理システムや不法投棄の監視の効率化 ○ 高齢者や障がい者等の社会的弱者にもやさしい廃棄物処理サービスの提供
リサイクル、熱利用	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物の処理施設では、資源化施設が設置され、再使用・再生利用した後、素材としてリサイクルできないものは焼却時に熱利用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ AI による効率的な自動選別が可能になり資源化量が向上
最終処分量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ○経済活動で使用されたものは、多くが循環利用 ○どうしてもリサイクルできないものは廃棄物として処分 	